事例 06

山形県

和歌山産業 株式会社

販路開拓

マーケティングを基本に商品企画・開発に携わりながら、将来的には販路開拓を実現するプロフェッショナル人材を採用

企業概要

業種	食品製造業
本社所在地	山形県東根市
創業年	昭和 35 年
代表取締役	石井　斉
従業員数	165 名

主な事業の内容

山形県を代表する果物･野菜を原料とする食品製造業で山形特産品の果実素材を活かし、カップゼリーを中心にジャム・カップ飲料・フルーツソース等を製造し、全国のスーパー・コンビニエンスストア・ドラッグストア等に展開している。

企業の課題・プロフェッショナル人材を採用したきっかけ

商品企画、品質保証、及び商品加工製法や法令を理解出来る専門性の高い人材を必要としていた。

採用したプロフェッショナル人材

氏名	伊藤　葉子	年齢	46 歳
家族構成	独身	還流ルート	U ターン
出身地	山形県天童市	前居住地	北海道札幌市
役職名等	マーケティング本部　商品企画部　課長		
前職	札幌市大手菓子メーカー 商品開発室　係長		

経歴

- 2014 年　札幌市大手菓子メーカー　商品開発室に所属
チョコレートを使用した菓子の開発と食品表示業務を担当
- 2017 年　国際的チョコレートコンクール「インターナショナルチョコレートアワード」アジア大会、世界大会で複数回入賞
- 2018 年　受賞作を使用した菓子の発売
- 2018 年　当社に入社

プロフェッショナル人材の声
～新天地での活躍～

マーケティング本部
商品企画部課長
伊藤　葉子

山形の美味しい果物を世界に発信
山形に貢献するため U ターン！

転職に至った経緯

これまで東京や札幌の企業で食品の研究開発や品質保証業務に携わってきました。新商品を開発するだけでなく、食品の物性測定により品質の評価を行ったり、食感を数値化することで噛み応えを分析するなど、最新の機器を使用した分析方法の検討も行ってきました。
地元に帰りたいという思いは以前からあり、山形での就職先を探してはいましたが、食品関係で商品開発や企画の募集はなかなかありませんでした。特に私はチョコレートの研究開発を専門としていたので、Uターンしたくても職場がないのではと言う不安がある一方、地元に戻ってこれまでの経験を活かしたいという思いもありました。
前職の菓子メーカーで担当していた製品が、チョコレートの国際コンクールで賞を獲った直後に、人材会社から当社の紹介を受けました。実績を残せてやり残したことは無いと思っていた時だったので、これもご縁かも知れないと思い応募させていただきました。

入社を決めた理由

自分が培ってきた経験を活かせる会社と出会ったことが一番の理由です。また、就職を機に山形を出て、外から見ることで、中にいる時は考えなかった山形の良いところを意識するようになりました。山形にはお米を始めとした美味しいものがたくさんあるので、もっと日本国内や世界の人たちに知ってもらいたいと思うようになっていました。前職では地元産の素材を活かしたチョコレートの商品開発に力を入れていました。当社はフルーツを使用した商品を製造していますので、山形産のフルーツを使った商品開発を行うことで、地元にも貢献できるのではないかと考えました。

プロフェッショナル人材が担当している業務

平成 30 年 4 月より、マーケティング本部　商品企画部の課長として新商品の企画に携わっています。当社は業務用やプライベート商品も取り扱っていますので、取引先の企業に直接出向き、新商品のご提案をすることもあります。同じ食品業界とはいえ、扱っている品目や製造工程、流通ルートなども違うため、新しく学ぶことも多く、今も勉強の毎日です。
当社はフルーツの加工をメインとした商品づくりを行っています。山形産のフルーツはそのままでも十分美味しいですが、加工することで新しい美味しさを発見することもできます。また加工食品の良いところは、手軽に楽しめて美味しさが長く持続することです。遠くへの輸送も可能になるので、よりたくさんのお客様に山形のフルーツを味わっていただくことができるようになります。
食品に対するお客様の意識が変わってきており、法律も改正されていますので、その厳しい要求に迅速に対応しながら、美味しく安全な食品をお客様にお届けできるよう日々会社全体で取り組んでいます。山形のフルーツを使用した商品を世界へ発信するのが私の目標です。

社長の声
～プロフェッショナル人材の採用の効果～

代表取締役
石井 斉

会社を変える原動力に
驚きを与える商品を世の中に！

・2018年９月
「ジュレココ・ラ・フランスミックス」など
地元の素材を活かした商品販売
・入社以来、約20品の新商品開発に関わる

商品開発会議の様子

当社はフルーツ加工を59年間にわたり行っており、加工品の主流が缶詰からゼリーへ、そして飲料へと製品の主体が変わってきています。また缶詰やゼリーなどの単純商品から、現在はタピオカなど固形分が入った飲料や、その他お客様のニーズに応えたオリジナリティのある新しい商品が必要となっています。さらに容器形態や、味や賞味期限を決定づける殺菌方法等も、ますますお客様の要望・志向が多様化しており、それらに応えて行く必要があります。

そこで他の会社、他の製品カテゴリーの経験を積んだ人材が、新しいビジネスやモノ作りには絶対必要だと、社長就任時から考えていました。

そんな中、県プロフェッショナル人材戦略拠点の訪問を受け、公的な支援も含まれており、是非活用してみようと考えたわけです。そして人材紹介会社を通してプロ人材の紹介があり、採用に至りました。

伊藤は採用に至ったのは２つの要因があります。
１つはこれまで培ってきた経験を活かし、新しい考え方や提案が出来る人材であること。もう１つは、地元の果物（フルーツ）への愛情や地元の生活を知り、地元従業員との溶け込みも早い人材と判断したことです。すなわち山形に縁があったと思われます。

伊藤に期待することは、お客様が「こんなモノ作りが出来るのか！」という驚きを与えられるような商品を、世の中に送り出してもらいたい。ひいては会社を変える原動力になってもらいたいということです。現在もすでに、商品企画・開発会議も積極的にリードし、新商品の販売も実践しています。

また、今回お世話になったプロ人材拠点については、引き続き県内中堅・中小企業のためマッチングのサポート役として継続して頑張ってもらいたいと思います。企業の希望するプロ人材の採用・活用がひいては地元企業の価値を上げるものと思っています。

採用担当者の声
～プロフェッショナル人材採用にあたり 苦労・工夫した点～

常務取締役
及川 誠人

山形放送　県政広報番組
「やまがたサンデー５」
にプロフェッショナル人材事業が取り上げられ、プロフェッショナル人材として出演しました。

女性の視点・発想で新しい企画を
地元愛の強い人とのめぐり合い！

当社の商品開発や企画部門は、新しい発想や企画・考え方との融合が必要だと思っていました。例えば当社商品と菓子メーカーとのコラボなども考えられます。

そんな時、県プロ人材拠点の訪問があり、タイミングが良かったと思います。採用にあたって苦労した点としては札幌市に在住の方と言うことで札幌に出張の際、１回目の面接を行いました。その後２回目は、当社での面接となり採用内定となったわけです。企画開発系の応募がなく困っていた所に現れたこともあり、運命の出会いだと思っています。

プロ人材の伊藤にはこれまでの職歴・経験を踏まえ、開発部門やマーケティング部門に携わってもらい、特に女性の視点での発想で提案をしてもらったり、企画・開発をしてもらい社内活性化にも大いに役立つものと期待しています。また、地元愛が強いということもすごく強みだと思っています。